

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は南河内地区唯一の夜間定時制高校である。働きながら学ぶ生徒をはじめ、多様な事情・目標を持って入学してくる生徒一人ひとりに対して、生徒の興味・関心に応じた特色ある教育活動を展開し、生徒に基礎・基本の学力を定着させるとともに、自尊感情と自己有用感を高め、志と生活力のある社会人を育成する。また、地域との連携を深め、地域から信頼され必要とされる学校づくりを充実させる。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 生徒の基礎学力を向上させる。

- ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、すべての教科・科目において、授業内容・方法等の研究・改善を行う。
- イ 生徒の基礎学力の定着をめざした授業方法の開発・実践を行う。
- ウ 教員の更なる授業力向上のための外部講師を含めた校内研修を行う。

(2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程の充実を図る。

- ア 生徒の実態に合った基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の充実を図る。
- イ 特別非常勤講師等の外部講師を積極的に活用し、高度な技能・技術など本物に触れる教育を実施する。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度の肯定的回答(平成 27 年度 67.8%)を平成 29 年度には 75%以上に引き上げる。

2 生徒の規律・規範の確立と豊かな心をはぐくむ

(1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養する。

- ア 本校の農園を活用した「農園実習」を「志学」の実習として実施し、豊かな人間性、志や夢を育む。
- イ 「寄り添う教育」を基幹としながらも、校則の遵守や学習規律の向上など生徒の規範意識の醸成に取り組む。
- ウ 生徒の規範意識の向上と地域貢献のため、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。
- エ 魅力ある学校行事や部活動、農園を活用した地域交流等を通じ、生徒の自尊感情と自己有用感を高める。

(2) キャリア教育の充実、資格取得の充実を図る。

- ア 入学時から教育活動全体を通じて進路指導を行い、正規雇用をめざした就職支援体制を整える。
- イ 実践的な職業教育を通じて社会人としての資質や能力を高めるとともに、進路につながる資格取得のための支援を充実させる。

※進学希望者の進学率 100%維持と就職希望者の内定率を段階的に引き上げ、平成 29 年度には就職希望者（学校斡旋）の内定率 70%をめざす。

(3) 中途退学・不登校の減少に取り組む。

- ア 中高連携・人間関係や居場所づくり・基礎学力養成講座など、中途退学・不登校を減少させるための取り組みを行う。
- イ 「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用した、生徒支援（中退防止）コーディネーター、生徒支援（中退防止）プロジェクトチームを中心とした様々な課題を抱える生徒への支援の体制づくりや教育相談を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。

※生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度（面倒見のよさ など）を引き上げ、肯定的回答を 70%以上にする。

※教育相談体制をさらに充実させ、生徒向け学校教育自己診断における担任以外に相談することができる先生がいる(平成 26 年度 43.6%、平成 27 年度 46.4%)を平成 29 年度には 50%に引き上げる。

3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり

(1) 生徒たちの安心と安全のための取り組みの充実を図る。

- ア 校内の教育相談体制を充実させ、生徒が気楽に相談できる雰囲気作りに努める。
- イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して交通安全指導を行う。
- ウ 覚せい剤・大麻等の薬物乱用防止教育を学校全体の教育活動全体を通じて取り組む。

(2) 家庭・地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。

- ア 長期欠席等の生徒の状況を家庭に連絡し、保護者への協力を得るなど家庭と連携した生徒の出席状況の改善を行う。
- イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、中学校との連携を深め生徒理解や生徒支援の充実を図る。
- ウ 近隣幼稚園等の園児、地域の方を農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を深める。また、「公開講座」等本校の施設設備を活用した地域交流の取り組みを通じて地域に開いた学校づくりを進める。
- エ 転編入生を受け入れ、卒業まで導くサポートを行い、地域の「学び」のセーフティネットとしての定時制の役割を果たす。
- オ 生徒が安心して学校生活を送れるための合理的な配慮を推進し、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりをめざす。

※保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度（面倒見のよさ など）を 80%以上で維持する。

4 学校運営体制の確立と教職員の資質向上

(1) 学校運営体制の確立を図る。

- ア 准校長のリーダーシップのもと P D C A サイクルによる学校経営を推進する。
- イ 准校長の学校経営に資する学校活性化及び校内課題の解決に向けた検討・研究を行う「学校課題検討会議」を組織し校内課題の解決を図る。
- ウ 学校自己診断など教育活動その他の学校経営の状況を学校協議会等で公表し学校運営に資する。

(2) 教職員の資質向上を図る。

- ア 日常的な O J T の推進、校内研修の活性化を行う。
- イ ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。

※校内研修、報告会を年間 5 回以上実施し、人材の育成や情報の共有などを行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
生徒・保護者・教員について、昨年度との変化をみるために、同じ質問項目で実施した。提出率は、生徒 56.6%→69.1%、保護者 54.4%→58.3%、教員 97.1%→97.0%であった。	第 1 回（7/15） ○今年度の取組み紹介 ・協議員から教育相談窓口へ来た生徒の様子について質問が出された。

府立藤井寺工科高等学校（定時制の課程）

<p>生徒については、全 12 項目中、肯定的回答の割合が増えたものは 7 項目と改善が見られた。</p> <p>保護者についても、全 14 項目中、肯定的回答の割合が増えたものは 13 項目であった。</p> <p>教員については、全 53 項目中、肯定的回答の割合が 10% 以上増えたものが 2 項目。5～10%増えたものは、11 項目あった。今年度は肯定的回答の割合が 10% 以上減少したものは 6 項目あったが、全体的には改善がみられたと考えている。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>生徒「わかりやすい授業が多い」（68.5%→60.7%）、保護者「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」（55.8%→58.9%）、教員「教材の精選・工夫を行っている」（97.2%→87.5%）「指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている。」（88.6%→84.4%）であった。教員が日々、授業内容を工夫改善しながら実践して行くことがさらに必要である。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・生徒「学校に行くのが楽しい」（69.6%→61.3%）、「先生は生徒達のことを、よく見て対応してくれる」（73.5%→68.3%）、「学校生活について、先生の指導には納得できる」（73.5%→69.3%）、保護者「学校の生徒指導の方針に共感できる」（84.5%→85.8%）、「学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意志疎通を積極的、きめ細かく行っている」（78.7%→85.1%）教員「生徒指導において、家庭との連携ができて」（88.6%→87.5%）。若干評価がダウンした項目もあるので、常日頃より綿密に教員が生徒個々に丁寧に指導を行うことが、生徒や保護者の理解と信頼を取り戻すことにつながると考える。</p> <p>・生徒「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」（48.0%→53.7%）、「社会人になったときに必要になってくることについて学ぶ機会が多い」（59.7%→55.9%）、保護者「学校は、生徒に生き方を考えさせ、豊かな心を持った生徒を育てようとしている」（86.8%→84.3%）、「学校は子どもに生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を育てようとしている」（84.5%→83.6%）、「学校は生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている」（82.2%→88.1%）など、評価は若干ダウンしている項目もあるが、教科以外の教育活動の内容についても好結果が得られている。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・教員「学校運営に准校長がリーダーシップを発揮している」（88.6%→96.9%）、「准校長は日頃から、教育方針や学校運営方針を教職員に話している」（88.6%→93.8%）、「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」（71.4%→75.0%）等、学校組織に関する質問項目 16 項目のうち、10 項目で肯定的な意見のアップがみられた。</p> <p>・「研修に参加した成果を他の教員に伝える機会が設けられている」（65.7%→50.0%）、「学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある」（40.0%→31.2%）などダウンした項目について早急に改善できるよう対応が必要であると思われる。</p>	<p>思春期で相談しにくい環境であり、相談しやすい環境づくりができれば、なおよいと思う。また、この学校は、生徒一人ひとりに対して手厚く支援していることが良いという意見であった。</p> <p>・現在の中退防止率はいくらか、協議員から質問が出された。20%程度であると返答。家庭環境や様々な背景があると思うので、できる限り一人でも進級させていただいて、中途退学者を減らし卒業生を増やす努力をしてもらいたいとの意見をいただいた。</p> <p>・この学校は、一人ひとりを大切に、生徒に伝えようと努力している。今後も今までの取り組みを継続していただきたいとの意見をいただいた。</p> <p>第 2 回（12/15）</p> <p>○今年度の取り組みの進捗状況報告</p> <p>・協議員からは、在学中から職場体験や学外の方々とのつながりができ、良い体験ができたのではないかと意見をいただいた。</p> <p>・働くという認識が、高校生段階ではまだできていないのでは、就職するときや企業に入ってからでないと身に付かないのではないかと意見もあった。</p> <p>・定時退庁という残業をしない働き方が進められているが、アルバイトから正社員に向けた意識改革や、ライフプランニングを見据え、働くということを見直すべきだとの意見もあった。</p> <p>○授業アンケート結果について</p> <p>・協議員からは、生徒の学習理解がなかなか進まない中、教員は生徒のレベルに合わせて、努力されているとの発言があった。</p> <p>・また、生徒の家庭環境が多様で変化が大きいため、学校が個々に対応する役割は大きいとの意見もあった。</p> <p>第 3 回（2/14）</p> <p>○本校の現状について</p> <p>・平成 28 年度学校評価・平成 29 年度学校経営計画について</p> <p>・授業アンケート（2 回目）の結果・学校教育自己診断の結果について</p> <p>・今年度の取り組み報告・次年度に向けての課題について</p> <p>以上、学校側より報告し議論いただいた。学校協議委員より以下の質問あり。</p> <p>・授業アンケートの結果について他の学校と比較しているのか？</p> <p>⇒自校での経年変化を計るものです。</p> <p>・SSW が関わって何人ぐらいの生徒がいい方向に意識の変化がみられたのか？</p> <p>⇒現在では 4・5 人が改善した。SSW 一人なので、そんなに多くの数は抱えきれないが、最大限できることをやっています。また、SSW だけでなく、SC や生徒支援コーディネーターも含め生徒支援の充実を図っています。</p> <p>・学校協議会などで学校としての取り組みを更に発信していくのが良いと思います。</p> <p>⇒学校協議会で報告したことは、HP 等で随時アップして発信してまいります。</p> <p>・教員用学校教育アンケートで、「評価について話し合う機会が多い。」という項目の結果が、昨年度より減少している理由は何ですか？</p> <p>⇒本校では、前期で生徒の出欠が話の大半を占め、評価については年度末に話し合う機会が多くなります。評価については、1 月中旬頃より追認定補習や情報の共有なども含めた話し合いを行っています。</p> <p>等の返答を行った。</p> <p>学校協議委員から、引き続き本校の各取り組みの継続を支持・支援する意見をいただいた。</p>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 生徒の基礎的学力を向上させる</p> <p>(2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程の充実を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、すべての教科・科目において、授業内容・方法の改善を進める。</p> <p>イ 生徒の基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善の一環として学び直しを目的とした、反復練習を主としたモジュール授業（理数、国、英）を 1 年生を中心に継続・拡大する。</p> <p>ウ 外部講師の活用も含めた教員の「授業力向上」校内研修を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア 特別非常勤講師や高度熟練技能者等の外部講師を積極的に活用し、生徒の興味・関心が深まる授業づくりや資格取得指導、進路講話など生徒のキャリア意識が高まる本物に触れる教育を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を 70%以上にする。(26 年度 66.5%、27 年度 67.8%)</p> <p>イ モジュール教材の見直しを行う。最初の診断テスト結果より 1 月実施の診断テストでの正答率 5%アップを達成する。(26 年度 50%、27 年度 55%)</p> <p>ウ 年間 2 回以上の校内研修の実施。</p> <p>(2)</p> <p>ア 外部講師の有効な活用について計画的な授業等の活用について検討を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度は 60.7%であった。生徒の学力・興味・関心など個に応じた指導方法や工夫に取り組むたい。(△)</p> <p>イ 学力診断テストの正答率は、前年比+1%の 56%であった。継続して基礎学力の定着に努めたい。(○)</p> <p>ウ 不登校生徒対応研修を行い、生徒への接し方やコミュニケーション方法について研修を 2 回実施した。また、合理的配慮についての研修を 2 回行い、理解を深めることができた。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 特別非常勤講師の方 13 名に、延べ 383h の指導を願い、資格取得やキャリア意識の形成に役立った。(○)</p>

府立藤井寺工科高等学校（定時制の課程）

2 生徒の規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ	<p>(1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養</p> <p>(2) キャリア教育の充実・資格取得の充実を図る。</p> <p>(3) 中途退学・不登校の減少</p>	<p>(1) ア 「農園プロジェクト」を中心に、学校農園を使用した「農園実習」を「志学」の実習として実施し、豊かな人間性、志や夢を育む。 イ 校則遵守、学習規律など生徒の規範意識の向上を図るとともに、規範意識の醸成を育むための地域貢献として学校周辺の清掃活動「グリーンキャンペーン」を実施する。 ウ 魅力ある学校行事や部活動、農園を活用した地域交流等を通じ、生徒の自尊感情と自己有用感を高める。 エ 校種間連携を通じ支援学校等との共同学習を実施する。</p> <p>(2) ア 職場体験や学校見学など、生徒の進路実現の支援を充実させる。 イ 進路につながる資格取得の推進を通じてキャリア教育の充実を図る。 生徒の進路が実現できるように資格取得のための支援を充実させる。</p> <p>(3) ア 中高連携・人間関係・居場所づくり・基礎学力講座等を通じ、中途退学・不登校の減少させるための充実重点をおき、家庭はもちろん生徒の雇用主とも連携を深め、授業への出席率を向上させることで中途退学の減少に取り組む。 イ 「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用した、生徒支援（中退防止）コーディネーターを中心とした生徒支援（中退防止）プロジェクトチームによる様々な課題を抱える生徒への支援の体制づくりや教育相談を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度 70%以上を維持する。 (26 年度 72.0%、27 年度 72.2%) イ 「グリーンキャンペーン」を年間4回以上実施 ウ 生徒会活動、ボランティア委員の活動の機会増加のための検討を行う。 エ 年2回の支援学校との共同学習を実施。</p> <p>(2) ア 進学希望者の進学率(昨年100%)を維持、就職希望者の内定率(26年度58%、27年度68.4%)を70%へアップをはかる。 イ 資格取得数は、年間延べトータル数100以上を維持する。</p> <p>(3) ア 中途退学率昨年度比3%減少させる。(26年度16.1%、27年度13.5%(年度末)) イ 課題のある生徒への生徒支援（中退防止）コーディネーターを中心とした生徒支援（中退防止）プロジェクトチームによる支援体制を充実させケース会議やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を行い中途退学・不登校の減少を図る。</p>	<p>(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度は66%であった。農園だけではなく、全ての実習や教科においても工夫改善を行い、満足度を上げたい。(△) イ 「グリーンキャンペーン」を年間4回実施した。参加した生徒は延べ26人であり、地域の方から褒めていただき、自尊感情や自己有用感を得ることができた。(○) ウ 生徒会活動は1回/月定期的に活動した。ボランティア参加生徒も延べ84名であった。(◎) エ 支援学校との共同学習も年2回実施した。お互い協力・協調の大切さを学べた。(○)</p> <p>(2) ア 進学希望者の進学率89%、就職希望者の内定率80%であった。(◎) イ 資格取得数は、年間延べ111となった。生徒は自信が付き、キャリア意識形成に役立った。(○)</p> <p>(3) ア 中途退学率は年度末時点で、13.1%であった。(△) イ 中退防止コーディネーターを中心とした生徒支援プロジェクトによる支援体制を整備し、生徒の居場所をつくり延べ395人の利用があった。SSWと連携し、個別ケース会議52件、SCも含めたコア会議を18回実施した。不登校生徒宅への家庭訪問にもSSWに同行してもらい、通学できるように改善した。(◎)</p>
3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり	<p>(1) 生徒たちの安心と安全のための取り組みの充実を図る。</p> <p>(2) 学校・家庭・地域の連携</p>	<p>(1) ア 多様な生徒・保護者の相談や、相談需要数の増加をうけて、より一層、教育相談体制の充実を図りスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用を図る。 イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して交通安全指導を行う。 ウ 薬物乱用防止教育の充実を図る。</p> <p>(2) ア 保護者懇談会の充実や学年通信等を発行する等、家庭との連絡を頻繁に行い、家庭との連携を深める。 イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、生徒理解や生徒支援のための中学校との連携を深めるとともに、本校の教育活動の広報を行う。 ウ 近隣の幼稚園等の園児、地域の人々を農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を継続し本校の教育活動への協力と理解を深める。 エ 地域の方対象の公開講座の開催を継続する。 オ 生徒が安心して学校生活を送れるよう、合理的配慮を推進するための研修会を実施する。</p>	<p>(1) ア スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用の活性化及び教育相談体制の充実により、生徒向け学校教育自己診断「担任以外に相談することができる先生がいる。」を50%に引き上げる。(26年度43.6%27年度46.4%) イ 交通安全教室を年間3回開催 ウ 薬物乱用防止教室を年間2回以上開催する。</p> <p>(2) ア 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度80%以上を維持する。(26年度82.6%、27年度78.3%) イ 生徒出身中学校全校訪問の維持(50校以上)する。 ウ 年間に10団体程度を農園に招待する。(26年度延べ10団体) エ 公開講座を年間5回程度実施する。 オ 研修会、先進校との交流会を行う。</p>	<p>(1) ア スクールカウンセラーによる面談は延べ26人実施できた。生徒向け学校教育自己診断「担任以外に相談することができる先生がいる。」は、47%であり、若干上昇したが、生徒の信頼を得られるよう努力したい。(○)。 イ 交通安全指導を年間3回開催できた。未登録車両も減少させることができた。(○) ウ 薬物乱用防止教室は1回の開催となった。高校生に蔓延している薬物の危険性を学ぶ機会を設定したい。(△)</p> <p>(2) ア 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度は81%であった。保護者の理解や期待に継続して応えていく。(○) イ 生徒出身中学校訪問を実施した。入学生徒が少なく、延べ訪問数は27校であった。羽曳野市立中学校との連絡協議会にも参加し、在校生の情報を収集に努める。また、入試後、入学者情報を収集するための中学校訪問を実施した。(○) ウ 農園への近隣幼稚園等の園児、地域の人々を作物収穫へ招待した団体数は13団体であった。地域の方々や園児からも理解や意義を得られた。(○) エ 公開講座を年間7回実施し、延べ59名の参加があった。(○) オ 合理的配慮を推進するための研修会を開催し、LGBT・発達障がいについての研修を実施した。(○)</p>

府立藤井寺工科高等学校（定時制の課程）

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 学校運営体制の確立と教職員の資質向上</p>	<p>(1) 学校運営体制の確立を図る</p> <p>(2) 教職員の資質向上を図る</p>	<p>(1)</p> <p>ア 准校長の学校経営に資する学校活性化及び校内課題の解決に向けた検討・研究を行う「学校課題検討会議」を組織し校内課題の解決を図る。</p> <p>イ 学校自己診断など教育活動その他の学校経営の状況を学校協議会等で公表し学校運営に資する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 日常的なO J Tの推進、校内研修の活性化を行う。</p> <p>イ ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教育活動の活性化及び校内課題解決に向け校内で課題検討を組織的に行い校内課題の解決を図る。教員向け学校教育自己診断「教育活動について、教員間で日常的に話し合っている(26年度 72.7%27年度 74.3%)を75%に引き上げる。</p> <p>イ 教育活動全般にわたる点検評価を行い、教員向け学校教育自己診断「次年度の計画に生かしている(26年度 85.8%27年度 85.7%)」を90%に引き上げる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 各種校内研修を5回以上実施する。</p> <p>イ 外部研修会への推薦、参加者による校内研修報告会5回を実施する。着任1～2年の教員への校内研修を年間4回以上実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教育活動の活性化及び校内課題解決に向けて、経営戦略会議を現在36回実施しており、施設の利用や管理について検討している。教員向け学校教育自己診断「教育活動について、教員間で日常的に話し合っている」は78.1%であった。年代層の隔たりを無くし、日常的に話し合える職場を形成したい。(○)</p> <p>イ 教育活動全般にわたる点検評価を行い、教員向け学校教育自己診断「次年度の計画に生かしている」は65.6%であった。学校協議会で公表し、改善点等を議論いただき、次年度に活かしていきたい。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア 校内研修として、新転任者研修を7回実施し、本校の特徴や仕組み・生徒の特性・配慮事項等を理解してもらった。(○)</p> <p>イ 初任者を含め外部研修会参加者による校内研修は、LGBT・いじめ・ICT活用・人権・授業づくり・定通初任研等6回実施できた。後、クラス開き・定通初任研の報告会を実施した(○)</p>
---	--	---	---	---